

1. 分娩 delivery, parturition, labor

【定義案】

胎児およびその付属物を母体から完全に排出、または娩出することをいう。

【産科婦人科用語集・用語解説集】 p226

胎児および付属物（胎盤・臍帯・卵膜・羊水）が娩出力により産道を通して母体から排出される一連の生理現象を分娩という。出産は分娩を意味する一般用語として用いられているが、法律用語や保健用語には分娩よりも出産の方が多く用いられている。ICD-10では、出生（live birth）は「妊娠期間にかかわりなく…」と定義されているが、この場合は胎児が母体外生育可能な時期に到達した以後（妊娠満 22 週以降）を出産と呼び、それ以前（妊娠満 22 週未満）は流産という。なお、出産は出生と死産の両方を含む用語である。

【助産学講座－1】 ⑦ p 4

分娩とは、娩出物（胎児およびその付属物）が娩出力（陣痛および腹圧）によって産道（骨産道および軟産道）を通して母体外へ排出される一連の現象をいい、陣痛の発来とともに始まり、胎盤の娩出によって終了する。また、手術分娩などで、陣痛を欠くものや自然産道を通らないものも、娩出物の排出をもって分娩とする。

【助産学講座－2】 ⑦ p 153

「分娩」と「出産」

「分娩」とは胎児および付属物（胎盤・臍帯・卵膜・羊水）が娩出力により産道を通して母体外に排出される一連の生理現象である。「出産」は分娩を意味する一般用語として用いられているが、社会的・文化的側面も含み、分娩よりも広い概念であり、法律用語や保健用語には「出産」のほうが多く用いられている。

【最新産科学】 正常編 p 225

胎児およびその付属物を母体から完全に排出、または娩出することをいう。妊娠の時期により流産・早産・正期産・過期産に分類される。また、分娩方法により、自然分娩・異常分娩、胎児数により単胎分娩、多胎分娩などに分類される。

【系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学】 ② p 178

分娩とは、胎児およびその付属物が子宮から母体外に完全に排出、あるいは娩出される現象をいう。出産も分娩と同義語に使われているが、母体を中心に考えた場合は分娩を用い、胎児を中心に考えた場合には出産を用いる。

2. 出産 birth

【定義案】

分娩を意味する一般用語で、法律用語や保健用語として用いられることが多い。

【産科婦人科用語集・用語解説集】⑤p14

胎児および付属物（胎盤・臍帯・卵膜・羊水）が娩出力により産道を通して母体から排出される一連の生理現象を分娩という。出産は分娩を意味する一般用語として用いられているが、法律用語や保健用語には分娩よりも出産の方が多く用いられている。ICD-10では、出生（live birth）は「妊娠期間にかかわらず…」と定義されているが、この場合は胎児が母体外成育可能な時期に到達した以後（妊娠満22週以降）を出産と呼び、それ以前（妊娠満22週未満）は流産という。なお、出産は出生と死産の両方を含む用語である。

【助産師基礎教育テキスト】⑦p4

分娩と同義語に用いられる。出産は法令用語であり、出産数は出生数と死産数の合計で表される。

【助産学講座】⑦p153

「分娩」と「出産」

「分娩」とは胎児および付属物（胎盤・臍帯・卵膜・羊水）が娩出力により産道を通して母体外に排出される一連の生理現象である。「出産」は分娩を意味する一般用語として用いられているが、社会的・文化的側面も含み、分娩よりも広い概念であり、法律用語や保健用語には「出産」のほうが多く用いられている。

【最新産科学】正常編p225

分娩と同様に用いられている。主に法令用語、一般用語である。しかし母体中心に考えたとき分娩を用い、児を中心に考えた場合、出産を用いている。出産はまた衛生統計用語として用い、死産と出生を合わせたものとして使用される。

【系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学】②p178

分娩とは、胎児およびその付属物が子宮から母体外に完全に排出、あるいは娩出される現象をいう。出産も分娩と同義語に使われているが、母体を中心に考えた場合は分娩を用い、胎児を中心に考えた場合には出産を用いる。

3. 自然分娩 spontaneous labor (delivery)	
【定義案】	自然の娩出力によって、胎児およびその付属物が産道を通って娩出された分娩をいう。
【助産学講座】 ⑦ p 5	胎児が自然の娩出力によって、自然産道から娩出された場合を自然分娩という。
【最新産科学】 正常編 p 226	自然の娩出力によって自然産道から娩出するものをいう。
4. 経膣分娩 vaginal delivery	
【定義案】	胎児およびその付属物が産道を通って経膣的に娩出された分娩をいう。
テキスト記載なし	
5. 正常分娩 normal labor (delivery)	
【定義案】	陣痛が自然に発来した後も良好な経過により分娩が進行し、正期産（妊娠満 37 週以降、妊娠満 42 週未満）で経膣的に前方後頭位にて成熟児が生産で娩出された分娩をいう。
* 陣痛促進剤の使用、会陰切開術などは含むか？	
【産科婦人科用語集・用語解説集】 p 243	正期（37～41 週）に自然に陣痛発来し成熟胎児が経膣的に前方後頭位にて娩出し、母児ともに障害や合併症がなく、予後良好であった分娩をいう。さらに分娩経過において、通常の範囲内の会陰切開以外の手術的操作を行うことなく、分娩所要時間が初産婦では 30 時間未満、経産婦では 15 時間未満である分娩をいう。
【助産学講座】 ⑦ p 5	分娩経過に異常を認めない分娩を正常分娩という。すなわち、正期産で、生産で、自然分娩である場合がこれに該当する。 <u>陣痛促進剤などを使用した場合も、経過に異常がなければ正常分娩に含まれる。</u>
【最新産科学】 正常編 p 226	正期産でさらに正常胎位、胎勢をもって自然分娩し、母児ともに安全であるものをいう。
【系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学】 ② p 178	分娩の経過によって正期産で自然に陣痛が発来し、良好な陣痛により順調に分娩が進行したのち、胎児が経膣的に前方後頭位で娩出される分娩。

6. 周産期 prinaltal period

【定義案】

妊娠満 22 週以降、出産後満 7 日未満の時期をいう。

【産科婦人科用語集・用語解説集】 p222

出産前後の期間のことで、胎児が子宮外生活可能になったとみなされる妊娠週数以降、出産後 7 日間を周産期と定義されている。とくに胎児が生育可能性を生じる時期については、先進国と開発途上国の間でも差があり、長い間議論が交わされてきた。しかし ICD-1 (1993) では「周産期は妊娠満 22 週 (154 日) に始まり (出産体重が正常では 500g である時点)、出産後満 7 日未満で終わる」と定義され、わが国でもこれを採用した。なお周産期死亡率や死亡比の統計は、従来の統計と比較する都合上、妊娠満 28 週以降の統計と併記される。

7. 褥婦 puerpera, puerperant, lying-in woman,

【定義案】

分娩終了後、妊娠および分娩によって生じた身体の変化が妊娠前の状態に回復するまでの期間を産褥期といい、その期間は通常、分娩後 6~8 週間とされている。この産褥期にある女性を褥婦という。

【産科婦人科用語集・用語解説集】 p230

分娩終了後、妊娠および分娩によって生じた身体の変化が妊娠前の状態に回復するまでの期間 (通常、分娩第 3 期終了直後から 6~8 週間) にある女性をいう。WHO の ICD-10 にある定義では 42 日間をいう。

【助産師基礎教育テキスト】⑥ p 6

女性の身体には、分娩が終了すると同時に妊娠前の状態に戻ろうとする変化がみられる。妊娠・分娩によって生じた母体の解剖・生理機能的変化が妊娠前の状態に復古する過程を「産褥」といい、産褥期間中の女性を「褥婦」という。

【系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学】② p 308

*産褥・・・産褥とは、分娩が終了し、妊娠・分娩により生じた母体の解剖学的変化と機能的変化が非妊時 (妊娠前) の状態に回復するまでをさし、その期間は分娩後 6~8 週間とされている。

8. 産婦 parturient [woman]

【定義案】

分娩第1期開始から分娩第3期終了までの期間を分娩期といい、この分娩期にある女性を産婦という。

【産科婦人科用語集・用語解説集】 p 198

分娩中すなわち分娩第1期開始から分娩第3期終了までの期間にある婦人をいう。初めて分娩する婦人を初産婦といい、既に分娩を経験している婦人を経産婦という。

【助産学講座-1】 ⑦ p 4

分娩中の女性を産婦といい、初めて分娩する女性を初産婦、すでに妊娠22週以降の児の分娩経験がある女性を経産婦という。分娩を1回経験した女性を1回経産婦、2回以上分娩を経験した女性を2, 3回…経産婦という。満19歳未満の初産婦を若年初産婦、満35歳以上の初産婦を高年初産婦という。5回以上の経産婦を頻産婦または多産婦という。

【助産学講座-2】 ⑦ p 136

日本産科婦人科用語検討委員会では「産婦 parturient」とは、「分娩中すなわち分娩第1期開始から分娩第3期終了までの期間にある女性」と定義している。

【系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学】 ② p 59

はじめて分娩する女性を初産婦といい、すでに妊娠22週以降の分娩経験をもつ女性を経産婦という。未産婦とは妊娠22週以降の分娩を経験したことのない女性をさし、初産婦と異なり、非妊娠の女性も含む。

9. 急産 precipitate labor (delivery)

【定義案】

陣痛発来後、分娩が急速に進行し、終了に至るものを急産という。

【最新産科学（異常編）】 p273

（過強陣痛：症状および経過）陣痛時の疼痛が激しく、産婦は苦悶し、顔面は発赤腫脹し、チアノーゼを来し、反射的に怒責して不随意に糞尿を漏らし、時に頸部、胸部などに気腫が生ずる。腹圧もまた反射的に増強し、産道に特別抵抗のない時は分娩は急速に経過し、開始後数分間で終わることがある。これを急産 precipitate labor とよぶ。

【新女性医学体系 25 正常分娩】 p90

（過強陣痛：治療・予後）産道抵抗が小さい場合は急速に分娩が進行し、**墜落産**になることもある。

*論文では「墜落分娩」の使用が多い

【山田麻衣、馬淵亜希：保健指導で見せて使えるシート付き 妊婦さんに説明できる!妊娠期の異常徴候 墜落産予防を説明しよう!(解説/特集)、ペリネイタルケア、33 (8) 792-795、2014。】

墜落産とは、急激に分娩が進み、自宅や車の中などで出産になってしまうことです。歩行中やトイレの中など分娩場所はさまざまで、急産と呼ばれることもあります。

<引用・参考文献>

- 1) 鈴木真. “施設外で分娩になりそうな場合、なってしまった場合”. 周産期救急そのときどうする!?: 明日にでも起こりうる69の危機に立ち向かう. 光田信明編. ペリネイタルケア新春増刊. 大阪, メディカ出版, 2009, 182-5.
- 2) 田邊美智子. “産婦の看護”. 母性看護学①: 母性看護実践の基本. 第3 版. 横尾京子ほか編. 大阪, メディカ出版, 2013, 144-58, (ナーシング・グラフィカ).

*時間については様々（2時間、3時間）・・・書籍では明示なし（例：分娩が急速に終了する）

【熊本県玉名市 坂本産婦人科クリニックブログ】

陣痛が始まってから2時間以内で生まれてしまうお産を、急産といいます。

10. 急速^{すい}遂^い娩 forced delivery

【定義案】

分娩経過中に母児に危険が生じた際に分娩経過を短縮させ直ちに児を娩出させることをいう。その方法として分娩第2期で胎児を経膈的に急速に分娩させる場合には吸引分娩と鉗子分娩が行われ、経膈的な分娩が困難と判断された場合は緊急帝王切開術が行われる。

*クリステル胎児圧出法は含むか

【助産師基礎教育テキスト-1】⑤ p 15

産科手術法として以下の分娩様式がある。通常自然分娩では胎児娩出が不可能な場合や、急速な分娩進行が必要な時（急速遂娩）に施行される。

- ・吸引分娩
- ・鉗子分娩
- ・帝王切開術

【助産師基礎教育テキスト-2】⑦ p 188

急速遂娩法とは、分娩経過中に胎児機能不全、妊娠高血圧症候群重症など母児に危険が生じ、自然の分娩進行を待機しては遅すぎる場合に、分娩経過を短縮させ直ちに児を娩出させる方法である。分娩第2期で胎児を経膈的に急速分娩させる手技には吸引分娩と鉗子分娩がある。経膈的な分娩が困難と判断された場合は急速遂娩として、緊急帝王切開術が行われる。

【助産学講座】⑦ p 176

いろいろな処置にもかかわらず胎児機能不全が回復しない場合は、急速遂娩法を施行し分娩する。子宮口が全開大していれば鉗子分娩・吸引分娩を行い、全開大していなければ帝王切開を行う。出口部であればクリステル胎児圧出法で分娩させることもある。

【最新産科学】正常編 p 226

「遂娩 Entbindung」

なんらかの人工介助（薬剤、理学的処置、手術など）を加えることによって、分娩を遂げしめることをいう。

11. 努責 bearing down, (maternal) bearing down efforts

【定義案】

自分の意思や医療者の誘導で行う出産時のいきみ。

【助産師基礎教育テキスト】⑤p63

分娩進行に伴って生じた不随意で生理的ないきみは「腹圧」と表記し、産婦が自分の意思や医療者の誘導でいきむ「努責」とは区別して表記するのが望ましい。

*「怒責」とはいきんで、声門を閉じて肺から呼気を出しようとする動作であり、この動作により胸腔・腹腔内圧が著しく上昇する。一方、「努責」とは、いきんで肛門を自ら開くこと、あるいは出産時のいきみ、胎児を排出するときのいきみ。口を開いていきむのが怒責と異なる。

【助産学講座】⑦p109

*バルサルバ法の見直し。努責の説明なし。

小刻みに「フーウン」「フーウン」と努責することで・・・

【系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学】②p246

努責の説明なし。

努責感（排便したいような感じで胎児を娩出したい気持ち、いきみ）

【大辞林】

「怒責」←怒るという字 排便時などに下腹部に力をいれること

「努責」はなし

12. 共圧陣痛 bearing down pain

【定義案】

分娩が進行して胎児下降部が骨盤底に達し直腸を圧迫するようになると起こる不随意で生理的な腹圧と、陣痛が加わりいきみを抑制できなくなる状態。

【助産師基礎教育テキスト】⑤p63

腹圧に陣痛が加わった状態を共圧陣痛 (bearing down pains)と呼ぶ。腹圧は、腹壁諸筋、横隔膜筋が協力して収縮し、腹腔内圧を上昇させ、子宮体に作用し胎児の娩出を助ける。腹圧は本来、意識的に調節可能（随意性）であるが、分娩が進行して胎児下降部が骨盤底に達し、軟産道や直腸を圧迫するようになると、反射的に腹圧が生じる（生理的ないきみ）さらに分娩が進行して、胎児下降部が陰門を通過しようとする直前の時期に達すると、腹圧が不随意に怒って意識的に抑えられなくなる。

【助産学講座】⑦p27

分娩が進行して胎児下降部が骨盤底に達し直腸を圧迫するようになると反射的に腹圧がおきてくる。さらに分娩が進行した胎児娩出直前には陣痛の発作ごとに強い腹圧がおこり腹圧を抑制できなくなる。この状態を共圧陣痛という（p 54）。児頭下降部が陰門を通過する時期には、腹圧はほとんど不随意におこって抑制できなくなる（p 73）。分娩第2期に胎児が下降して軟産道が強く圧迫されると、産婦は反射的に腹圧を加えるようになる。これを共圧陣痛という。

【最新産科学】正常編 p 240

陣痛はますます強くなり、腹圧は不随意に陣痛発作に加わり、いわゆる共圧陣痛になり、・・・

*国語辞典には「共圧」という言葉はないようだ

13. 陣痛 labor pains

【定義案】

不随意的に周期的に反復しておこる子宮収縮をいう。本来は胎児娩出に対して主導的に働く子宮収縮の事をいうが、広義に解釈すると妊娠中や出産後の子宮収縮も含む。

【産科婦人科用語集・用語解説集】 p235

本来は分娩時の反復する子宮収縮をいうが、広くは妊娠中の子宮収縮も含めて表現されている。洋の東西を問わず痛みと表現されているが、元来は子宮収縮そのものを指し、疼痛を伴うことが絶対的な条件ではない。陣痛（子宮収縮）の性状の表現には、発作（収縮期）、間欠（静止期）、周期（発作+間欠）および収縮の強さなどが用いられる。分娩時の陣痛を分娩陣痛といい、胎盤娩出後の陣痛を後陣痛という。妊娠経過中にたまにみられる子宮収縮を妊娠陣痛といい、分娩が近づいて比較的頻繁に起こる不規則な子宮収縮を前（駆）陣痛という。

【助産師基礎教育テキスト】⑤p26-27

周期的に反復しておこる子宮収縮であり、胎児娩出に対して主導的に働く。

陣痛は持続的な子宮収縮ではなく、発作と間欠を交互に反復する。陣痛は収縮が徐々に強くなる増進期、収縮がピークに達する極期、収縮が次第に減弱する減退期の3期に分類される。収縮の開始から次の収縮の開始までの時間を陣痛周期という。

【助産学講座】⑦p21-22

陣痛とは、分娩時に周期的に反復して起こる不随意な子宮筋（特に子宮洞筋）の収縮で、ほとんど常に疼痛を伴う。

【最新産科学】正常編 p 227

不随意に、周期的に反復して起こる子宮体筋の収縮で、胎児を娩出する原動力である。

① 妊娠陣痛、②前陣痛、③分娩陣痛 ④後陣痛 収縮と休止と交互に反復する。

【系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学】②179

妊娠・分娩・産褥期に、不随意に反復する子宮収縮をさす。通常、分娩時には痛みを伴う。

【病気がみえる】 p226

陣痛とは自分の意思ではコントロールできずに（不随意的に）反復して起こる子宮筋の収縮である。

14. 陣痛発作 onset of labor pains

【定義案】

分娩陣痛は持続的な子宮筋の収縮と休止を交互に反復する。収縮期を陣痛発作という。

【産科婦人科用語集・用語解説集】 p236

子宮収縮の発作（収縮）持続時間と間欠（静止）期待持続時間とを足したものを陣痛周期という。

【助産師基礎教育テキスト】 ⑤p27

陣痛は収縮が徐々に強くなる増進期、収縮がピークに達する極期、収縮が次第に減弱する減退期の3期に分類される。

（図2-12） 陣痛開始から3期をあわせて陣痛発作と表記している。

【助産学講座】 ⑦p21-22

陣痛発作では、筋収縮と筋弛緩がほぼ規則正しく交互に繰り返される。この筋収縮期を陣痛発作、・・・

【系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学】 ②p180

分娩陣痛は持続的な子宮筋の収縮ではなく、周期的に収縮と休止を交互に反復する。収縮期を陣痛発作という。

【病気がみえる】 p226

収縮のおこる陣痛発作（痛みを伴う）

15. 陣痛周期 cycle of the labor pains

【定義案】

陣痛発作時間と陣痛の休止時間をあわせたもの。

【産科婦人科用語集・用語解説集】 p236

子宮収縮の発作（収縮）持続時間と間欠（静止）期待持続時間とを足したものを陣痛周期という。

【助産師基礎教育テキスト】 ⑤p27-28

収縮の開始から次の収縮の開始までを陣痛周期という。陣痛の頻度（陣痛周期）

【助産学講座】 ⑦p21-22

発作の間の休止期を陣痛間欠といい、陣痛発作と陣痛間欠両者を合わせた時間を陣痛周期という。

【最新産科学】 正常編 p 227

発作から発作までの休止期を陣痛間欠

【系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学】 ②p180

発作持続期間と間欠持続時間をたしたもの（間欠休止期をいう）

【病気がみえる】 p226

陣痛発作と陣痛間欠をあわせたものを陣痛周期という。

16. 産痛 pains of the delivery

【定義案】

分娩時に産婦が感じる疼痛の総称。子宮収縮、軟産道の伸展や開大、さらに骨盤壁や骨盤底の圧迫などによって下腹部痛や腰痛が生じる。

【産科婦人科用語集・用語解説集】 p198

分娩時の子宮収縮、軟産道開大、骨盤壁や骨盤底の圧迫、子宮下部や会陰の伸展などによって生じる下腹部痛や腰痛などの疼痛を総称して産痛という。産痛の程度は分娩の難易の他に個人差も大きい。一般に神経質な人、不安緊張感の強い人は痛みを強く訴える。

【助産師基礎教育テキスト】⑤p27

陣痛による疼痛は、子宮筋の収縮による子宮壁内の知覚神経の圧迫と、子宮周囲の腹膜の牽引によって発生する。さらに分娩進行に伴う軟産道の拡張痛や圧迫痛が発生し、これらを総称して産痛という。

【助産学講座】⑦p136

産痛とは、分娩時に産婦が感じる疼痛の総称である。主因となるものには陣痛および胎児の下降にともなう軟産道（子宮下部・子宮頸部・膣・会陰・骨盤筋）の伸展や拡張、更に骨産道の恥骨結合部、仙骨・尾骨関節の離開・脱臼も起こり得る。

【最新産科学】正常編 p 295

女性の原罪である産痛pain of the delivery

【系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学】②p180,194

陣痛によって子宮筋自体から発生する痛み、子宮下部から発生する痛み、子宮下部並びに頸管が開大する際の痛み、さらに分娩の進行に伴い軟産道の圧迫や会陰が伸展・圧迫される痛み、これらすべてを産痛という。

分娩時の子宮収縮、軟産道開大、骨盤壁や骨盤底の圧迫、会陰の伸展などによる痛みを、産痛とよぶ。産痛の程度は個人差が大きく、陣痛があっても産痛として自覚しない産婦もいるし、分娩初期から強い疼痛を訴える産婦もいる。産痛は子宮ならびに子宮の支持組織、膣、会陰なども痛みの総称であり、単一の神経支配では説明できない。

17. 排臨 appearing

【定義案】

陣痛発作時に会陰が開いて、胎児先進部の一部が現れるようになる。しかし陣痛の休止時には再びこれは後退し、陰裂も閉じる。このような状態を排臨という。

* 陣痛休止時？休止期？

陣痛発作時間に対応すると、休んでいる時は休止時？休止期？悩みました。

【産科婦人科用語集・用語解説集】 p291

陣痛発作時に胎児先進部が下降して陰裂の間にみえるが、間欠期には後退して見えなくなる状態をいう。

【助産師基礎教育テキスト】 ⑤p32

児頭の下降に従い、骨盤底の延長、后会陰部の伸展、陰裂の開大が起こる。さらに児頭による直腸の圧迫のため便意をもよおし、少量の排便を伴う場合もある。次いで、前会陰部が伸展を始め、膨隆した陰裂の間から陣痛発作に児頭が現れる。しかし、陣痛間欠期になると児頭は膈内に後退し、陰裂が閉じる。この状態を排臨という。

【助産学講座】

排臨という言葉はでるが (⑦p110)、用語については説明なし。

【最新産科学】 正常編 p 240

陣痛発作時に陰裂が少し開いて、その間に児頭の一部が現れるようになる。しかし間欠時には再びこれは後退し、陰裂も閉じる。このような状態を排臨と呼ぶ。

【系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学】 ②p192

陣痛発作時に陰裂が開き児頭の一部が見て、陣痛間欠時には後退して見えなくなる状態。

18. 発露 expression

【定義案】

胎児先進部の下降が進み、陣痛休止時にも胎児先進部が陰裂より絶えず見え後退しない状態をいう。

* 陣痛休止時？休止期？

【産科婦人科用語集・用語解説集】 p292

胎児先進部が陰裂間に絶えずみえ、陣痛間欠期にも後退しない状態をいう。

【助産師基礎教育テキスト】 ⑤p32

共圧陣痛の増強に伴い、児頭の下降はさらに進み、会陰部は大きく膨隆する。児頭は陣痛間欠期でも膈内に後退することがなくなり、絶えず陰裂より児頭先進部が現れるようになる。この状態を児頭の発露という。

【助産学講座】

発露という言葉出るが (⑦p110)、その用語については説明なし。

【最新産科学】 正常編 p 240

陣痛発作時に陰裂が少し開いて、その間に児頭の一部が現れるようになる。しかし間欠時には再びこれは後退し、陰裂も閉じる。このような状態を排臨と呼ぶ。

【系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学】 ②p192

陣痛発作時に陰裂が開き児頭の一部が見て、陣痛間欠時には後退して見えなくなる状態。

19. 和痛分娩 (-)

【定義案】

主に薬剤を用いず産婦の母体疲労を緩和することにより分娩を順調に進行させることを目的とした分娩方法。ラマーズ法、新ラマーズ法、ソフロロジー法などがあてはまる。

* 文献では無痛分娩との区別が明確ではない。

薬剤使用の有無で分けてよいか？

reduce labor pain , alleviate labor pain

【産科婦人科用語集・用語解説集】 p314

無痛分娩の操作を行っても、分娩前期を通じて完全に無痛にすることは技術上困難なので、和通分娩という言葉を用いる者もいる。

【助産学講座】 ⑦p242

▶硬膜外麻酔による分娩・出産の鎮痛法を硬膜外無痛分娩という。

▶無痛分娩という用語は、硬膜外麻酔を行うことによって分娩管理自体が全く特殊なものになってしまう印象を与える。しかし本来は分娩・出産の痛み（産通）のみを緩和することが目標であり、子宮収縮や分娩経過に与える影響も最小限となるよう工夫を重ねられてきた。その結果、大部分の産婦は陣痛（子宮収縮）がいつ来ているのかわかり、努責のタイミングも自分で判断できるようになった。したがって実際は、産婦の状態は無痛よりも和痛や減痛に近いと言える。

【最新産科学】 正常編 p 295-304

（無痛分娩：心理学的方法による無痛分娩）（ラマーズ法、新ラマーズ法、ソフロロジー法などが紹介。）Reedの合理的自然分娩法、アロマセラピー、音楽などによる無痛分娩および和痛分娩の方法が報告されているが、その有用性は確立されていない。

【系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学】 ②p195

無痛分娩は、産婦の母体疲労を緩和することにより、分娩を順調に進行させることを目的に行われる。無痛分娩は、薬物を用いない方法と、薬物投与による方法の2つに大別される。しかし、これらの方法によっても完全に痛みを取り去ることは難しいため、和痛分娩とよぶこともある。

【新女性医学体系25正常分娩】 p180

（産科麻酔）経膈分娩時の陣痛による苦痛を軽減させるために、鎮静・鎮痛・麻酔効果を求めるものを、一般に無痛分娩あるいは和痛分娩（analgesia during labor）と呼んでいる。その方法には次のようなものがある。①心理学的な方法（介助者による心理的サポート、ナチュラルチャイルドバース（自然分娩法）、精神予防性無痛分娩（ラマーズ法）、②物理的的な方法（腹壁減圧法、鍼麻酔）、③薬物による方法（部位麻酔、全身鎮痛・麻酔）

20. 無痛分娩 analgesia during labor, painless delivery

【定義案】

主に薬剤により分娩時の疼痛を緩和、あるいは除去し、できる限りの無痛下に分娩を完了させるのを目的とした分娩方法。なお、薬剤を用いても完全に痛みを取り去ることは難しいため和痛分娩と用いる人もいる。

* 文献では無痛分娩との区別が明確ではない。
薬剤使用の有無で分けてよいか？

【産科婦人科用語集・用語解説集】 p313

薬剤により分娩時の疼痛を緩和、あるいは除去し、できる限りの無痛下に分娩を完了させるのを目的とした分娩法をいう。鎮痛剤または鎮静剤の全身投与、硬膜外麻酔、サドル麻酔、陰部神経麻酔、吸入麻酔、静脈麻酔などの局所または全身麻酔が行われる。麻酔が深くなるほど娩出力、とくに腹圧が抑制され、分娩が遅延するため鉗子分娩や吸引分娩などの産科手術が併用されることが多い。

【助産学講座】⑦p242

- ▶硬膜外麻酔による分娩・出産の鎮痛法を硬膜外無痛分娩という。
- ▶無痛分娩という用語は、硬膜外麻酔を行うことによって分娩管理自体が全く特殊なものになってしまう印象を与える。しかし本来は分娩・出産の痛み（産痛）のみを緩和することが目標であり、子宮収縮や分娩経過に与える影響も最小限となるよう工夫を重ねられてきた。その結果、大部分の産婦は陣痛（子宮収縮）がいつ来ているのかわかり、努責のタイミングも自分で判断できるようになった。したがって実際は、産婦の状態は無痛よりも和痛や減痛に近いと言える。

【最新産科学】 正常編 p 295-304

（無痛分娩：心理学的方法による無痛分娩）（ラマーズ法、新ラマーズ法、ソフロロジー法などが紹介。）Reedの合理的自然分娩法、アロマセラピー、音楽などによる無痛分娩および和痛分娩の方法が報告されているが、その有用性は確立されていない。

【系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学】②p195

無痛分娩は、産婦の母体疲労を緩和することにより、分娩を順調に進行させることを目的に行われる。無痛分娩は、薬物を用いない方法と、薬物投与による方法の2つに大別される。しかし、これらの方法によっても完全に痛みを取り去ることは難しいため、和痛分娩とよぶこともある。

【新女性医学体系25正常分娩】 p180

（産科麻酔）経膈分娩時の陣痛による苦痛を軽減させるために、鎮静・鎮痛・麻酔効果を求めるものを、一般に無痛分娩あるいは和痛分娩（analgesia during labor）と呼んでいる。その方法には次のようなものがある。①心理学的な方法（介助者による心理的サポート、ナチュラルチャイルドバース（自然分娩法）、精神予防性無痛分娩（ラマーズ法）、②物理的的な方法（腹壁減圧法、鍼麻酔）、③薬物による方法（部位麻酔、全身鎮痛・麻酔）

21. 会陰保護 protection of the perineum

【定義案】

会陰の損傷を予防または軽減し、児の安全な娩出を図ることを目的とした手技。

*ハンズオン、ハンズオフ

ハンズオン（解説を記載してよい場合は以下の文章を追加する）

急激な陰門通過を避け、母児の安全をはかる。児頭・肩甲の自然回旋を助長し、最小周囲径を保つようにする。

*肛門保護のみは含まれるか？

【産科婦人科用語集・用語解説集】 p154

胎児の娩出の際、会陰裂傷を防止する目的で行う操作。その要領は、1) 会陰および膣口の伸展を助けると同時に、2) 児頭の正常回旋（第3回旋）を助け、3) 外陰部通過をできる限り徐々に行うことにある。仰臥位、側臥位、坐位などで行う方法があるが、仰臥位が一般的である。

【助産師基礎教育テキスト】⑤p155

会陰保護の目的は、会陰の損傷を予防または軽減し、児の安全な娩出を図ることにある。会陰保護は、そのための助産師の意図的行為であり、①娩出力の方向調整機能、②児頭の娩出速度の調整機能、③胎児の娩出方向の調整機能の3つの重要な機能がある。

【助産学講座】⑦p110

開始時期は初産の場合は児頭が鶏卵大に発露してきたころであり、経産は排臨から発露に移行するころである。ただし、経産の場合は個人差がきわめて大きく、陣痛の強弱、努責の程度、会陰の進展状況をみて肛門保護から即座に会陰保護へ移行する準備が必要である。会陰保護の目的は急激な陰門通過を避け、母児の安全をはかる。児頭・肩甲の自然回旋を助長し、最小周囲径を保つようにする。児を最小周囲径でスムーズに娩出させることで、母体の軟産道尊重を最小限とし、児の安全な娩出をはかる。

（肛門圧迫・保護の方法 陣痛発作時、努責をしているときに右手の四指をそろえて、肛門が隠れるくらいのおおきさにたたんだガーゼか綿花を肛門にあてて保護する）（会陰保護の目的・会陰保護の方法についても記載している）

【最新産科学】正常編 p 279-280

児頭または肩甲部が陰門を通過する際には、会陰部が強く伸ばされて会陰裂傷を作りやすいから、会陰保護を行う（会陰保護の要点1) 2) 3) 記述あり）。介助方法の記述もあり（手掌と肛門との間には厚く折り重ねた滅菌ガーゼ、または滅菌脱脂綿を滅菌ガーゼで包んだものを置き、手の糞便による汚染を防ぐ。このガーゼは時々交換する）。

【日本助産学会 エビデンスに基づくガイドライン—妊娠期・分娩期 2016】 p95-97

会陰保護（ハンズオン、ハンズオフ）

ハンズオン：右手で会陰を保護し左手で児頭を屈曲させ娩出をコントロールする

ハンズオフ：娩出の準備はしておくが会陰や児頭には触れず、児頭娩出後に受けとめるのみ

22. 搾乳 milk pumping

【定義案】

用手的、または搾乳器を用いて絞り出された乳汁のこと。入院、仕事、外出などで児と母親が離れていて直接哺乳が難しい場合、乳房の緊満、特定部位のうっ乳による母親の不快感や痛みの緩和、母乳分泌維持の目的で行う。

【助産師基礎教育テキスト】⑦p288

搾乳方法には、手による搾乳（用手搾乳）と搾乳器による搾乳がある。母親には両方の説明を行う。手による搾乳では、腱鞘炎になったり、乳房に擦過傷を作ったりすることもあるので注意し、方法を適宜使い分ける。最大限（500ml/日以上）の搾乳を行うとその後の母乳分泌維持につながる。

【助産学講座】⑦p381

直接授乳困難や母子分離による搾乳採取、残乳の排乳などの目的で行う。用手搾乳法と搾乳器による搾乳がある。

【系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学】②p345

主に直接授乳できない場合に選択される。搾乳には用手搾乳法と搾乳ポンプを用いる方法がある。

【ナーシンググラフィカ 母性看護学 ②母性看護技術】 p 150

適応 ①直接授乳が難しい（入院、仕事、外出で母親と児が離れている場合、児が適切に吸着・吸啜できない）②母乳分泌を増加させる③乳房の緊満、特定部位のうっ乳による不快感、痛みの緩和

23. 卒乳 stop breast-feeding, weaning, not interesting in breast any more

【定義案】

乳幼児から自然に乳首に吸着しなくなり、母乳栄養を終了すること。

【助産学講座】⑧p193

母乳の終了はかつては「卒乳・断乳」といい、その時期を1歳から1歳6か月とされていた。これは母乳の栄養だけでは子供の成長発達に必要な栄養が不十分になることや、母乳を飲んでいることで離乳食が進まないこと、ただ飲むことで齲歯の可能性があるのである。しかし、いまは離乳食が進んでいれば母乳を飲ませていることの害はなく、一律にやめる時期を決める必要はないという考え方になっている。

【WHOホームページ和訳】

完全母乳育児を生後6か月まで行い、その後も2歳以降まで適切な補完食とともに母乳育児を継続することが大いに勧められます。

【日本助産師会 母乳育児支援業務基準検討特別委員会 赤ちゃんとお母さんにやさしい 母乳育児支援 より】

卒乳とは、赤ちゃんが母乳を飲まなくなることといい、そこには赤ちゃんの側から自然に飲まなくなることと、親の働きかけでやめていく頃も含まれることがある。

【デジタル大辞泉】

授乳を終えること。子供が成長し、乳を必要としなくなること。期限を決めて行う場合は「断乳」ということもある。

24. 断乳 breast-feeding cessation, weaning

【定義案】

母親側が時期を決め、母乳栄養を終了すること。

【助産学講座】⑧p193

母乳の終了はかつては「卒乳・断乳」といい、その時期を1歳から1歳6か月とされていた。これは母乳の栄養だけでは子供の成長発達に必要な栄養が不十分になることや、母乳を飲んでいることで離乳食が進まないこと、ただ飲むことで齲歯の可能性があるのである。しかし、いまは離乳食が進んでいれば母乳を飲ませていることの害はなく、一律にやめる時期を決める必要はないという考え方になっている。

【日本助産師会 母乳育児支援業務基準検討特別委員会 赤ちゃんとお母さんにやさしい 母乳育児支援 より】

断乳はお母さん側から母乳を断つという意味合いが強く、ある時期に一回でやめるようなときに使われている言葉。

【デジタル大辞泉】

授乳を断つこと。子供の成長に合わせ、乳を飲ませるのをやめること。

25. 離乳 ablactation, delectation, weaning

【定義案】

乳児の成長にともない、母乳またはミルクなどの乳汁栄養から幼児食に移行する過程をいう。離乳完了とは、おもな栄養源が乳汁以外の食物になる時期をもっていうが、母乳またはミルクを飲んでいない状態を意味するものではない。

【助産師基礎教育テキスト】⑥p221

母乳またはミルクなどの乳汁栄養から幼児食に移行する過程をいう。この間に乳児の摂食機能は乳汁を吸うことから食物をかみつぶして飲み込むことで発達し、摂取する食品は量や種類が多くなり、献立や調理の形態も変化し摂食行動は自立へと向かう。

【厚生労働省「授乳・離乳の支援ガイド」2007】

離乳の完了は、母乳または育児用ミルクを飲まない状態を意味するものではない

【大辞林 第3版】

乳児に少しずつ乳汁以外の食物を与え、次第に授乳から幼児食へ移行させること。ちちばなれ。

【栄養生化学辞典】

乳児の成長にともなって、母乳の摂取から母乳でない食物に切り替えていくこと。

【日本大百科全書(ニッポニカ)】

乳汁のみで栄養をとっている乳児に、種々の半固形食を与え、しだいにその硬度と量を増し、幼児の固形食形態に移していく過程をいう。離乳完了とは、おもな栄養源が、乳汁以外の食物になる時期をもっていう。

26. うっ滞乳 galactostasis

【定義案】

乳房内にたまった乳汁が乳管を圧迫し閉塞することで、排泄されない乳汁。うっ乳ともいう。

【助産師基礎教育テキスト】⑥p82

非感染性(うっ滞性)乳腺炎：乳管の閉塞や乳汁のうっ滞によって、非感染性の炎症症状が生じた状態を指す。

【助産学講座】⑦p297

乳汁うっ滞；乳汁分泌排出のアンバランスであり、乳房内に乳汁がうっ滞して乳管を圧迫し、排乳障害を起こしている状態である。

【最新産科学】異常編 p 428

乳腺炎：①乳輪(乳暈)の皮下に限局性の膿瘍が生ずる乳輪下膿瘍②乳輪実質を侵す可能性実質乳腺炎③乳腺分葉周囲の間質を侵す可能性間質乳腺炎④狭客と乳腺組織との間に膿瘍を形成する乳腺後方膿瘍がある。うっ滞性乳腺炎は実質乳腺炎の初期と考える。

【系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学】②p328

乳管の閉塞により分泌された乳汁が排泄されず、乳管内に乳汁がたまった状態。うっ乳ともいう。

【医学大辞典】

うっ滞とは、血液や組織液、リンパ液などが循環せずその場に滞っている状態

【ステッドマン医学大辞典】

放出されるべきものの体内への保留、貯留されている状態を指す。

【標準産科婦人科学】 p 539

うっ乳とは、乳汁が滞っている状態を指し、乳汁のうっ滞と同義語である。

27. うっ積 congestion

【定義案】

うっ滞乳が乳管内にたまり、乳房が生理的な張りを超えて腫脹した状態。

【最新産科学】異常編 p 429

乳汁うっ積；乳房は腫大緊張し、疼痛および熱感を伴うが体温の上昇はない(この場合に発熱があれば、これはいずれかの感染にほかならない)。乳汁の分泌は中止する。腋窩腺もまた腫脹し疼痛を来す。放置しても徐々に消退し、軟化し、乳汁の分泌も開始する。

【系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学】②p328

乳汁うっ滞による乳房緊満の状態をいう。

【日本助産師会 母乳育児支援業務基準2015】

乳房緊満とは、一般的には乳房から腋下にかけた組織の充満によっておこる。自然の経過の一部として生じる乳房の充実感を伴う張り(乳房の充満・生理的な緊満)、または乳房から乳汁が十分に排泄されない結果として生じる乳房の腫脹(病的緊満)を含む。engorgementはうっ積と訳される場合がある。最近では、緊満engorgementは病的な範囲として表記される傾向。

28. 副乳 accessory mamma

【定義案】

生まれつき腋下から乳頭を通り腹部、さらに鼠径部に至る線上の皮下に痕跡状乳腺が存在するもの。乳頭だけでなく腺組織も持つものを副乳、乳頭だけのものを多乳頭症という。

【産科婦人科用語集・用語解説集】 p297

副乳房(副乳)：乳房の数の過剰な奇形で、腋下から乳頭を通り腹部、さらに鼠径部に至る線上の皮下に種々の程度の痕跡状乳腺が存在することがあり、これを副乳房という。痕跡的な乳頭が存在する

【助産師基礎教育テキスト】④p22-23

ヒトにも副乳を有することがあり、特に腋窩に存在する副乳が、乳汁分泌が始まる頃に腫脹・疼痛をきたすことがある(図：副乳の分布)。

【助産学講座】⑦p283

胚発生時の異常で、乳頭だけのものを多乳頭症、腺組織を持つものを副乳房という。腋窩にある副乳は産褥期に腫脹しやすい。

【ナーシンググラフィカ 母性看護学② 母性看護技術】 p 25

生まれつき乳房の組織が乳房以外の場所にあるもの。異常ではなく、哺乳類の進化の名残とされている。

29. 分娩経過図（パルトグラム） partogram

【定義案】

子宮口の開大と児頭の降下度、分娩監視時に計測される陣痛や胎児心拍数に関する情報などを、同時に同じ記録用紙に経時的に記入することにより、分娩の進行状況を一目で把握できるようにした図。

【産科婦人科用語集・用語解説集】 p302

分娩の進行状態は、子宮口の開大と児頭の降下度で表現されるが、この他に分娩監視時に計測される陣痛や胎児心拍数に関する情報などを、同時に同じ記録用紙に経時的に記入することにより、分娩の進行状況を一目で把握できるようにした図である。人間の視覚によるパターン認識力を利用した簡便な分娩管理方法で、広く普及している。デザインした人により細部は異なるが記入事項はほぼ同じである。

【助産師基礎教育テキスト】 ⑤p53

分娩進行に伴う母児の変化を表に連続記入したもの。

【最新産科学】 正常編 p 271

（分娩の監視法：分娩進行度の総合判定）分娩経過図（パルトグラム）とは、分娩進行に伴う母児の変化を表に連続記入したもので、分娩進行の良否が判読でき、予後、産科処理の適応が決定できる。

記入事項：①陣痛発作時間（秒単位）、②陣痛間欠時間（分単位）…陣痛周期（発作時間＋間欠時間）としてもよい、③児頭下降度、④子宮口開大度、⑤胎児心拍数、⑥その他の記入事項：児頭回旋所見、母体血圧・脈拍・呼吸数など、産科処置の記入・診断の記入

【系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学】 ②p223

分娩経過に関する情報や、母子の健康状態に関する情報を、観察・診察結果、入院時胎児心拍モニタリングによる胎児心拍図より得て、分娩経過図（パルトグラム）に整理し、分娩経過の把握と、今後の予測を行う。図：記載例

【病気が見える】 p 254

分娩経過を記録し図式化したもの。陣痛発作時間と陣痛間欠時間、子宮口開大度と児頭下降度まどを経時的に記録する。ほかにも胎児心拍数や母体のバイタルサインなども記録する。

30. 妊娠経過図 (プレグノグラム)	pregnogram
<p>【定義案】</p> <p>妊娠経過中の子宮底長、腹囲、血圧、体重、胎児心拍数、超音波断層法による胎児所見などの種々の計測値を観察することができるようにした図。</p>	
<p>【産科婦人科用語集・用語解説集】 p282</p> <p>妊娠経過中の種々の計測値は従来、表の形式で記載されることが多かったが、数字の羅列された表は見にくく、異常の発生を見落としやすい。特に各測定値の増加率はほぼ一定の傾向を示すので、正常域と対比しながら図示することによって経過の良否を一目瞭然に観察することができる。具体的な方式については、施設により若干異なるが、一般に図式化されるのは子宮底長、腹囲、血圧、体重、胎児心拍数、BPDなどである。</p>	
31. 助産録	midwifery record
<p>【定義案】</p> <p>助産師が分娩の介助をしたときに記載することが義務付けられている助産に関する記録。記載義務は保健師助産師看護師法第42条第2項に定められる。また、5年間の保存が義務付けられる（同法第42条第1項）。記載事項は①～⑫であり、同法施行規則第34条に定められる。①妊産婦の住所、氏名、年齢及び職業、②分べん回数及び生死産別、③妊産婦の既往疾患の有無及びその経過、④今回妊娠の経過、所見及び保健指導の要領⑤妊娠中医師による健康診断受診の有無（結核、性病に関する検査を含む）、⑥分娩の場所及び年月日時分、⑦分べんの経過及び処置⑧分べん異常の有無、経過及び処置、⑨児の数及び性別、生死産、⑩児及び胎児附属物の所見、⑪産じよくの経過及びじよく婦、新生児の保健指導の要領、⑫産後の医師による健康診断の有無。</p>	
<p>【助産師基礎教育テキスト】 ③p144</p> <p>助産師には分娩の介助をしたときには、助産に関する事項を遅滞なく助産録に記載する義務がある（保健師助産師看護師法第42条第1項）。この記録は5年間保存されなければならない。また、刑法上、助産師は業務上取り扱ったことについての守秘義務がある。</p> <p>助産録の記載事項（保健師助産師看護師法施行規則第34条）：①妊産婦の住所、氏名、年齢及び職業②分べん回数及び生死産別③妊産婦の既往疾患の有無及びその経過④今回妊娠の経過、所見及び保健指導の要領⑤妊娠中医師による健康診断受診の有無(結核、性病に関する検査を含む)⑥分娩の場所及び年月日時分⑦分べんの経過及び処置⑧分べん異常の有無、経過及び処置⑨児の数及び性別、生死産⑩児及び胎児附属物の所見⑪産じよくの経過及びじよく婦、新生児の保健指導の要領⑫産後の医師による健康診断の有無。</p>	

32. 早期母子接触 early skin to skin contact

【定義案】

出生直後の正期産新生児を裸のまま母親の胸部もしくは腹部におき、母親と向かい合う体勢で裸の皮膚と皮膚を接触させるケア。主な効果は体温や血糖値の安定、啼泣の減少、感染予防、母子の絆の形成や母乳栄養の促進があげられる。実施する際は、機械を用いたモニタリングおよび新生児蘇生に熟練した医療者による観察など安全性を確保する必要がある。NICUにおいて全身状態が安定した早期産児や低出生体重児を対象に行われている母子の皮膚接触はカンガルーケア（Birth Kangaroo Care）と呼ぶ。

【助産師基礎教育テキスト】⑥p186

早期母子接触(skin to skin contact)；新生児に異常がない場合、出生直後から早期母子接触を実施する場合もある。早期母子接触とは新生児を母親の乳房の間に抱き、母親と向かい合う体勢で裸の皮膚と皮膚を接触させることをいう。出生後、自立呼吸を確認してから、臍帯の切断前あるいは後に行う。羊水を拭き取り、児の背部や頭部には温めておいたバスタオルをかけ皮膚の露出をなくし、室温や対流により体温が奪われるのを防ぐ。

【助産学講座】⑦p165

モーらは分娩時から分娩後24時間以内で、裸の新生児を母親の胸に直接うつぶせに早期に接触させることによる母乳栄養、行動、生理現象の効果を評価した。産後1か月から4か月までの母乳栄養と母乳栄養の期間に有意な効果があったこと、新生児の心肺機能の安定と泣きが減少したことを示した。心身ともに、すべての変化を円滑にすすめるケアとして早期授乳を含めた早期母子接触は、生理的に備わっている本能としての母親の能力を利用した自然の理にかなった方法である。少なくとも出生後90 - 120分の早期母子接触をすすめるのがよいとされる。その際はガイドラインに基づき注意深い観察と保温などの環境が整えられることが必要条件。

【系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学】②p472

カンガルーケア：全身状態の安定した早産・低出生体重児と親が直接肌と肌を合わせて抱っこするケアのこと。主な効果として体温や血糖値の安定、啼泣の減少、痛みの緩和、感染予防、母子の絆の形成促進があげられる。

【UNICEF/WHO：母乳育児支援ガイドベーシックコースp118】

分娩直後に行う母子の皮膚接触（early skin to skin contact 以下STS）とは、分娩後早期（数分以内）に、出生した新生児を母親の胸もしくは腹におき、母と子が肌と肌の触れ合いを少なくとも1時間は続けることである。

【ナーシンググラフィカ 母性看護学② 母性看護技術】 p98

カンガルーケア：出生直後に分娩室で行われる母子の早期接触のこと。母子関係や母乳栄養確立のために早期母子接触が推奨され、WHO/UNICEFの「母乳育児を成功させるための10か条」の広がりに伴い1993年以降急速に普及した。どのような新生児にとっても、保温、母乳哺育、母と子のきずな形成のために効果的であることが示されている。出生直後の新生児は全身状態が急変する可能性があるため、注意深い観察と十分な管理が必要。

【日本大百科全書（ニッポニカ）】

早期母子接触は、出産直後の新生児を母親が分娩(ぶんべん)室で抱く育児で、カンガルーケアは新生児集中治療室

(NICU) でケアする低出生体重児の保育に限定し、カンガルーケアは語感から安全とのイメージが強いため、早期母子接触という表現で注意を喚起すべきだ、との考えが盛り込まれた要望書と実施の留意点を盛り込んだ「実施の留意点」を2012年に公表した（日本周産期・新生児医学会、日本産科婦人科学会など8団体）。「カンガルーケア」とは全身状態が安定した早産児にNICU内で従来から実施されてきた母子の皮膚接触を通常指す。一方で、正期産新生児の出生直後に分娩室で実施される母子の皮膚接触については早期皮膚接触（early skin to skin contact）と呼ぶ。適応基準；胎児機能不全がなかった、アプガースコア1分・5分8点以上、正期産新生児、低出生体重児でない。中止基準；呼吸障害がある、SpO₂が90未満、活気に乏しい、睡眠状態になる。実施方法；母の上体挙上、パルスオキシメーターの装着か担当者の付き添い。

【病気が見える】 p 345

早期産児に行われてきたカンガルーケアの効果が認められ、世界中で正期産児にも皮膚接触が行われるようになってきたが、スタッフの管理なく皮膚接触を行うと事故につながる可能性がある。正期産時における皮膚接触は早期産児に対して行われるカンガルーケアとは異なるケアが必要であるとし、安全な実施には注意深い観察と管理が必要であると啓蒙を行っている。

【カンガルーケア・ガイドライン】

生まれて間もない児を母親の素肌に胸と胸とを合わせるように抱かせその上から温かい掛け物で覆うこと。